

奈良

1400年の精神文化の回廊

Nara - Cultural Corridor to 1400 Years Spiritual Tradition

—YouTube「奈良県文化資源活用課」チャンネルにて配信中—

下記のQRコードまたはYouTubeからアクセスください。

講 話 古谷正覚(法隆寺管長)
西山明彦(唐招提寺長老)
花山院弘匡(春日大社宮司)



パネルディスカッション 古谷正覚、西山明彦、花山院弘匡
コーディネーター 松本伸之(奈良国立博物館館長)



※講話及びパネルディスカッションは
令和3年2月6日に奈良春日野国際フォーラム能楽ホールで収録されたものです。

特別上演 天平楽府コンサート



映像上演 伊藤みろ

「いまに生きる奈良～シルクロード東の終着点 1400年の精神文化の回廊～」も配信中



奈良～1400年の精神文化の回廊

-Nara - Cultural Corridor to 1400 Years of Spiritual Tradition-

「いかす・なら地域計画」は、奈良県の文化観光拠点施設をはじめ、全国屈指の有形・無形の文化財等の文化資源を活用した総合的な魅力発信と創造の取り組みです。

春日大社のおん祭や東大寺二月堂のお水取りなど、奈良の社寺では千年の時を超えて今も絶やすことなく、尊い「いのち」を寿ぎ「祈り」を捧げてきました。奈良の文化資源の魅力の本質は、「歴史の中で育んできた精神文化～Spiritual Tradition」にあり、本イベントでは、「1400年の精神文化の回廊」をテーマに、4Kの最先端映像や奈良の社寺を代表する僧侶・神職らの講話とともに奈良の歴史と文化に培われたその叡智を紐解くスペシャルイベントです。



法隆寺/古谷正覚 管長

1948年大阪府生まれ。1971年龍谷大学文学部卒業、高野山大学大学院修士課程中退。
1985年、法隆寺執事就任。法隆寺文化財保存事務所所長補佐を経て1995年に同所長就任。
1999年、聖徳宗宗務所長・法隆寺執事長就任。2020年、法隆寺代表役員代務者就任。
2020年、法隆寺管長就任。



唐招提寺/西山明彦 長老

1951年、三重県生まれ。1982年、龍谷大学大学院修士課程修了。
1984年、(学)伝香寺学園初代理事長就任。
1989年、伝香寺住職就任。2011年、藍綬褒章を受章。
2016年、律宗管長・唐招提寺八十八世長老に就任。



奈良英文 撮影

春日大社/花山院弘匡 宮司

1962年佐賀県生まれ。1985年、國學院大文学部神道学科卒業。
奈良県立奈良高校などで地理を担当、2008年から春日大社宮司。
花山院家は藤原道長の孫で関白師実の二男家忠を祖に11世紀末に創立。五摂家に次ぐ九清華家の一つで旧侯爵家。
宮司は第33代目当主。



松本伸之(奈良国立博物館長)

1953年8月13日生まれ。1981年3月早稲田大学第一文学部卒業後、同大学院文学研究科修士課程修了。
財団法人久保徳記念文化財団東洋美術研究所研究員、東京国立博物館学芸部東洋課中国美術室長、同学芸企画部長、同副館長などを経て、2017年4月に奈良国立博物館長に就任。



天平楽府

奈良正倉院には、遣唐使が持ち帰った沢山の楽器や伎楽面が残されています。中でも螺鈿紫檀五弦琵琶などの楽器が現存しており、これらの楽器を復元し、第一線に活躍する演奏家らとこの復元楽器を用いて演奏する音楽団体が「天平楽府」です。
また、日本の重要文化財である「五絃琵琶譜」などの古代の楽譜を解読することで、シルクロードより伝来した過去の名曲や、劉宏軍が創作した音楽を上述の復元された楽器を用いて天平楽府では演奏しています。



伊藤 みろ(フォトアーティスト、メディアアートリーグ代表。)

2006年ヴェネチアビエンナーレ(ダンス部門)の公式イメージに作品が選ばれ、ドイツ・アメリカ・日本の三つの文化圏を股にかけ、世界の写真文化の第一線で、フォトアーティスト・文化芸術プロデューサーとして活動中。應義塾大学文学部美学・美術史学専攻を卒業後、ドイツ国立ルール大学にて哲学を、エッセン大学にて写真と応用美術を学ぶ。ドイツや日本でフォトアーティストとして活動する傍ら、ドイツで永住権を取得。2001年には、アメリカで永住権を取得し、ニューヨークにおいてハイエンドな写真家として活動。9.11同時多発テロに遭遇後は、聖徳太子に始まる日本の精神文化の1400年の伝統を、アートを通して海外に伝える活動「メディアアートリーグ」を主宰。東西交流の証拠であるヘレニズム文化の影響を残す天平彫刻の国宝や、伎楽、舞楽、能楽などの有形・無形の文化遺産を通して、世界の心の連帯を訴える、二つの展覧会&映像上映&レクチャーシリーズ「光と希望のみち」および「隠し身のしるし」を、外務省や在外公館、国際交流基金や日本カメラ財団との共催にて、世界巡回中。

(2021年3月29日現在)